

主観的ウェルビーイングと信頼感  
～IESS日米独3か国意識調査の分析から～

一橋大学経済研究所世代間問題研究機構准教授 松下 美帆  
(前 経済社会システム総合研究所 客員主任研究員)

# 主観的ウェルビーイングと信頼感 ～IESS 日米独3か国意識調査の分析から～

松下美帆<sup>1</sup>

## 1. はじめに

一般社団法人経済社会システム総合研究所（以下、IESS）は、2022年に「社会課題に関する日米独3か国意識調査 — 生活者、働き手、消費者、投資家、有権者としての意識」を公表した<sup>2</sup>。2022年夏にインターネット調査で実施された本調査では、米国やドイツと比べ、日本の生活満足度が顕著に低いことが示された。

主観的ウェルビーイングには、どのような要素が影響するのだろうか。松下（2023）は、カナダ財務省の報告書<sup>3</sup>を引用し、主観的ウェルビーイングの把握は、以下の3つのアプローチに集約されるとした。

- 評価的基準（Evaluative measures）：自身の生活の質に関する合理的で包括的な評価をするもの（とみなして計測するもの）
- ユーダイモニア的基準（Eudaimonic measures）：個人が意義や目的を感じる程度に関して計測するもの
- ポジティブ／ネガティブな感情（Positive or negative affective measures）：幸福感や不安といった感情の頻度に関して計測するもの

その上で、内閣府の生活満足度調査や世論調査では、一つ目の生活満足度評価は設問があるが、二つ目、三つ目については、十分な計測がなされておらず、改善の必要性を提起した。

IESSの3か国意識調査では、ユーダイモニア的基準やポジティブ感情に

---

<sup>1</sup> 一橋大学経済研究所世代間問題研究機構准教授。2023年3月31日まで、一般社団法人経済社会システム総合研究所客員主任研究員。本稿の執筆にあたり、松山健士理事長より多くのご助言を頂いたことに感謝申し上げます。なお、このペーパーにおける見解は著者自身のものであり、今後も含めて著者が所属する組織の見解ではありません。

<sup>2</sup> 報告書の概要及び本体は以下のURLで公表されている。

[https://iess.or.jp/pdf/rep\\_ishiki/20221027\\_01.pdf](https://iess.or.jp/pdf/rep_ishiki/20221027_01.pdf)

[https://iess.or.jp/pdf/rep\\_ishiki/20221027\\_02.pdf](https://iess.or.jp/pdf/rep_ishiki/20221027_02.pdf)

<sup>3</sup> Department of Finance, Canada. (2021)

近い設問がなされている。本ディスカッションペーパーでは、生活満足度評価やユーダイモニア評価に、どのような要素が関係するか、特に周囲との信頼感に着目して分析する。

## 2. 先行研究

Helliwell et al (2023)は、信頼が幸福度に与える影響について、これまでのWorld Happiness Report<sup>4</sup>での分析結果を以下のように総括する。

- 社会や制度に信頼を高く寄せる個人は、信頼が低い環境下にある者よりも幸福度が高いこと
- 高い信頼度は、特に逆境（失業、健康状態の悪化、災害等）において効果が大きいこと（以上、World Happiness Report 2020での分析）
- 相互信頼の高い社会では、世界金融危機後の幸福度への影響が小さかったこと（World Happiness Report 2013での分析）

また、各年のWorld Happiness Reportでは、それまでに収集された各国のデータを用い、生活満足度を被説明変数とし、国民一人当たりGDP、社会的支援、健康寿命、人生の選択自由度、寛容さ、政府の腐敗認識度を説明変数とする重回帰分析を行っている。Helliwell et al (2023)は、いずれも生活満足度評価（0～10点の「キャントリルの梯子」と呼ばれる設問での評価）に対して有意な影響を及ぼすことを示唆している。

今回の分析では、これらを参考に二段階の分析を行う。まず、ユーダイモニア的要素に類似する変数としての「役に立つ感」や、ポジティブ感情に類似する変数としての「喜び・楽しみ」が、生活満足度評価に与える影響を分析する。次に「役に立つ感」等に対して周囲との信頼感が与える影響を分析する。その際、Oshio and Urakawa(2013)及び小塩(2014)の手法を参考に分析する<sup>5</sup>。

具体的には、まず、生活満足度評価を被説明変数、「役に立つ感」及び「仕事等の喜び・楽しみ」を説明変数とし、基本的属性（性別、年齢、学歴、居住地域）

---

<sup>4</sup> 「World Happiness Report」は、国連総会決議を受けて始まったプロジェクトであり、直近の2023年版まで11回公表されている。

<sup>5</sup> Oshio and Urakawa(2013)は、主観的厚生（幸福感、健康感）に対して所得格差の認識が及ぼす影響について、説明変数を徐々に増やしながらか、オッズ比がどう変化するかを検証した。

や年収、職務内容も加え回帰分析を行う。次に、「役に立つ感」及び「仕事等の喜び・楽しみ」をそれぞれ被説明変数とし、周囲との信頼関係の評価を説明変数として、回帰分析を行う。特に、仕事での役に立つ感の有無に影響する要素は何か、仕事の喜び・楽しみについてはどうかなど、仕事面でのウェルビーイングに注目して分析を行う。

### 3. データ

I E S S の 2022 年 3 か国意識調査では、生活満足度評価について、「あなたは、ご自身の生活全般についてどの程度満足していますか。とても不満を「1」、とても満足を「10」としたとき、あてはまる満足の程度を1つお選びください」と設問した。回答は1点から10点の10段階で評価するよう求めている。

まず、生活満足度評価が7点以上の場合を1、そのほかを0とする「生活満足度高評価ダミー変数」を作成した。生活満足度評価の分布は、日本、米国、ドイツの3か国では異なるが、高評価群の閾値を国によって変えることなく、いずれも7点以上の場合を高評価群とした。

また、主観的ウェルビーイングの一つとされるユーダイモニア要素の計測に近似したものとして、「あなたは、自分の仕事（家事・学業を含む）をすることで自分が世の中に役立っていると感じますか」との問いを用いた。この問いに、「強く感じる」「ある程度感じる」と回答した場合を1とする「役に立つ感ダミー」変数を作成した。

主観的ウェルビーイングを構成する要素には、ポジティブな感情やネガティブな感情もあると考えられている。そこで、本調査での設問「仕事（家事・学業を含む）に喜び・楽しみを感じるか」に対し、「強く感じる」「ある程度感じる」と回答した場合を1とする「喜び感ダミー」変数を作成した。

周囲との信頼関係については、「それぞれで、信頼をおける人はどのくらいいますか。」との問いを、「家族」、「住んでいる地域」、「職場（学校）」ごとに回答させる設問を用いた。信頼がおける人が1人以上いる場合を1とするダミー変数を、家族、地域、職場ごとに作成した（「家族への信頼感ダミー」、「地域の人への信頼感ダミー」、「職場（学校）の人への信頼感ダミー」）。

また、「それぞれで、周りの人から信頼されていると思いますか。」との問いを

用いて、「家族」、「住んでいる地域」、「職場（学校）」ごとに、「信頼されている」との選択肢を選んだ場合を1とするダミー変数を作成した（「家族からの信頼感ダミー」、「地域の人からの信頼感ダミー」、「職場の人からの信頼感ダミー」）。

基本的属性については、性別は女性を1とする性別ダミー変数を作成した。年齢は、20歳代から60歳代まで、10歳ごとにグループ化した。年収は、個人年収の問いを使い、為替レートの変動はあるものの、日本、米国、ドイツとも、おおむね同様のレンジを確保して7区分にした。

#### 4. データの概観

日本の回答者 2,215 人の生活満足度評価の中央値は6点、平均値は 5.61 点、最頻値は5点であった。米国の場合、1,330 人の生活満足度評価の中央値は7点、平均値は 7.02 点、最4頻値は8点であった。ドイツでは、1,332 人の中央値は7点、平均値は 6.76 点、最頻値は8点であった。

「仕事（家事・学業を含む）をすることで自分が世の中に役立っていると感じるか」について、「そう思う」<sup>6</sup>者は、日本では回答者の 47.6%と、米国の 78.7%、ドイツ 77.5%より少ない。また、「役に立つ」と思う者と思わない者の生活満足度評価を比較すると、日本では、役に立つと思う者の平均が 6.6 点、思わない者では平均 4.7 点であり、有意に低い（図表 1）。

周囲との信頼関係については、日本では、職場、家族、地域のいずれにおいても、信頼されていると感じる者の割合が低い。日本では 65%の回答者が職場（学校）で信頼されていると感じないと回答した（米国では 19%、ドイツでは 26%）。また、信頼できる人が1人以上いる割合も 52%と、米国（77%）やドイツ（76%）より低い（図表 2）<sup>7</sup>。

---

<sup>6</sup> 「強く感じる」「ある程度感じる」との選択肢を選んだ場合を「そう思う」とし、「あまり感じない」「全く感じない」を「そう思わない」とした。

<sup>7</sup> IESS（2022）の報告書に、各種のクロス分析表が掲載されている。

図表 1. 「役に立つ」感の有無別に見た生活満足度

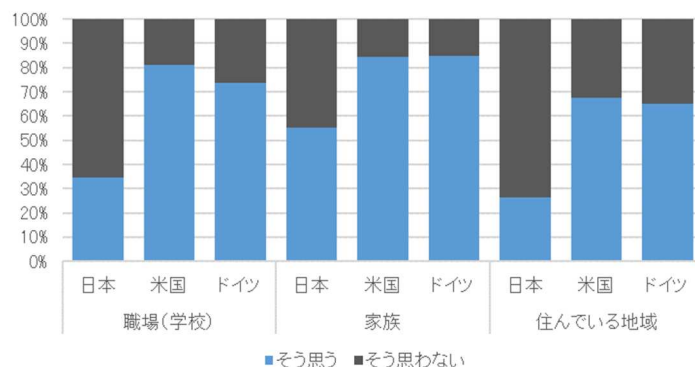
「仕事(家事・学業を含む)をすることで世の中に役立っていると感じるか」(無職含む全体)

	日本 (N=2,215)		米国 (N=1,330)		ドイツ (N=1,322)	
	割合(%)	生活満足度 (1~10点)	割合(%)	生活満足度 (1~10点)	割合(%)	生活満足度 (1~10点)
「そう思う」	47.6	6.56	78.7	7.45	77.5	7.10
「そう思わない」	52.4	4.75	21.3	5.45	22.5	5.58
全体	100	5.61	100	7.02	100	6.76

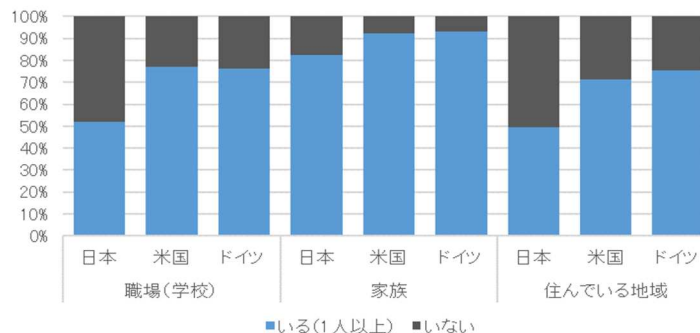
(注) 生活満足度は1点が最も満足度が低く、10点が最も満足度が高い。  
 「そう思う」は「強く感じる」「ある程度感じる」と回答した者を計上し、  
 「そう思わない」は「あまり感じない」「感じない」と回答した者を計上した。

図表 2. 周囲からの信頼感、周囲への信頼感

「周りの人から信頼されていると思うか」



「信頼をおける人がいるか」



職場(学校) 日本N=1,500、米国N=839、ドイツN=982  
 家族 日本N=2,215、米国N=1,330、ドイツN=1,322  
 地域 日本N=2,215、米国N=1,330、ドイツN=1,322

## 5. 分析結果

### <生活満足度高評価に影響する要素>

生活満足度高評価ダミーと、「役に立つ感」ダミー、「喜び感ダミー」の相関を見ると、日本では生活満足度高評価ダミーと役に立つ感ダミーの相関係数が0.358、生活満足度高評価ダミーと喜び感ダミーの相関係数は0.429、役に立つ感ダミーと喜び感ダミーの相関係数は0.655であった。米国、ドイツでも、役に立つ感ダミーと喜び感ダミーの相関係数が最も大きく、生活満足度高評価と役立つ感ダミーの相関係数が最も小さかった（末尾、参考図表1）。

次に、生活満足度高評価に対する役に立つ感、喜び感の影響を確認するため、プロビット回帰分析を行った。すなわち、生活満足度高評価ダミー（二値変数）を被説明変数とし、説明変数に役に立つ感ダミー、喜び感ダミー、国への信頼感ダミー、過去1年にボランティア活動・寄附の経験ある場合を1とするダミー変数、このほか、基本的属性の各種変数（年齢、性別、最終学歴、個人年収、職業、同居家族人数、居住地域）を加え、プロビット回帰分析を行った。

その結果、日本では、「仕事（家事・学業）で自分が世の中に役立っている」あるいは「仕事に喜び・楽しみを感じる」者は、生活満足度が高い可能性が有意に高いことが分かった。

具体的には、「役立っている」と感じる者は、そうでない者に比べ、生活満足度が高い（7点以上と評価する）確率が11.1%高く、「仕事に喜び・楽しみを感じる」者はそうでない者に比べ生活満足度が高い確率が24.2%高い。

米国、ドイツでも同様にプロビット回帰分析を行った。米国は日本と同様に、「仕事等で世の中に役立っている」あるいは「仕事に喜び・楽しみを感じる」者は、生活満足度が高い可能性が高い傾向が示された。一方、ドイツでは、「仕事（家事・学業）で自分が世の中に役立っている」と感じるかどうかは、生活満足度が高いかどうかと有意な関係が見られなかった。

図表 3. 生活満足度高評価に影響する要素（プロビット回帰分析の結果）

	生活満足度高評価ダミー 日本	生活満足度高評価ダミー 米国	生活満足度高評価ダミー ドイツ
自分の仕事(家事・学業を含む)が世に役立っていると感じる	0.111*** [0.0620,0.160]	0.108*** [0.0474,0.168]	0.06 [-0.00648,0.127]
仕事・家事等に喜び・楽しさを感じる	0.242*** [0.196,0.288]	0.242*** [0.180,0.303]	0.213*** [0.146,0.279]
国は信頼できる	0.113*** [0.0675,0.159]	0.115*** [0.0652,0.165]	0.0980*** [0.0462,0.150]
ボランティア寄附活動経験がある	0.0235 [-0.0186,0.0656]	0.0456 [-0.00423,0.0954]	0.016 [-0.0361,0.0681]
性別ダミー(女性=1)	0.0879*** [0.0392,0.137]	-0.044 [-0.0909,0.00284]	0.00446 [-0.0452,0.0541]
N	1,933	1,264	1,243
pseudo R-sq	0.1903	0.2093	0.1568
Wald chi2	423.36	282.41	221.17

※生活満足度高評価ダミー(生活満足度が7点以上の場合=1)を被説明変数とし、プロビット回帰分析の結果を、限界効果で示した(例えば、係数「0.111」は、仕事等が世に役立っていると感じる場合、生活満足度が7点以上になる確率が11.1%高い、という関係を表す)。\*p<0.05, \*\*p<0.01, \*\*\*p<0.001、カッコは95%信頼区間。  
※上記の説明変数のほか、年齢(5区分)、最終学歴(6区分)、個人年収(7区分)、職業(無職を含む10区分)、同居家族人数(6区分)、居住地域(4区分)を加えて分析した。

### <「役に立つ感」に影響する要素>

それでは、「役に立つ感」には、どのような要素が関係するのだろうか。ここでは、周囲との信頼関係の各種ダミー変数が、「役に立つ感」に与える影響について、説明変数を徐々に追加した場合にどう変化するかを観察する。

具体的には、Oshio and Urakawa(2013)の方法を参考に役に立つ感ダミー（二値変数）を被説明変数とし、信頼関係の各種ダミー変数と、基本的属性を説明変数とするロジスティック回帰分析を行った。

まず、モデルⅠからⅡ（モデルⅠ＋最終学歴、職業）、Ⅲ（モデルⅡ＋個人年収）と、徐々に説明変数を増やしてロジスティック回帰分析を行った。モデルⅠでは、同僚から信頼されていると感じる者は、そうでない者に比べ、役に立つ感を感じる可能性が、2.14倍高い。同僚に信頼できる人が1人以上いると思う者は、信頼できる人がいないと思う者に比べ、役に立つ感を感じる可能性が1.57倍高い。家族からの信頼感を感じる者は、そうでない者に比べ、役に立つ感を感じる可能性が1.47倍高い。家族に信頼できる人が1人以上いる者は、そうでない者に比べ、役に立つ感を感じる確率が1.56倍高い（参考図表2）。

この傾向は、モデルⅡで仕事（職種）を加味し、モデルⅢでさらに個人年収を



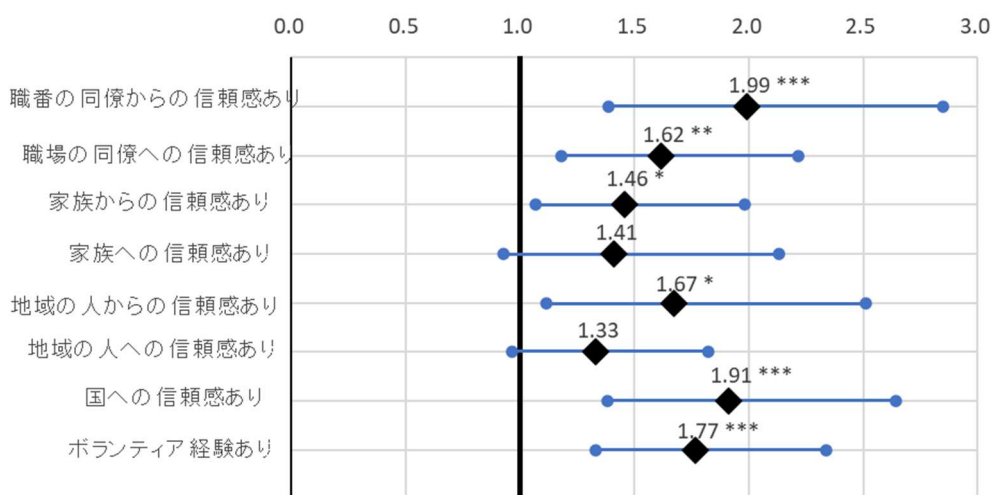
加味して、仕事や年収の違いを統制しても、おおむね同様に確認された。図表4にモデルⅢの結果を示したが、例えば、同僚からの信頼感があると感じる者は、そうでない者と比べ、役に立つ感を感じる確率が1.99倍高い。つまり、仕事や年収の違いを考慮しても、前述のモデルⅠの「2.14倍」からやや確率が低下するものの依然として1倍を大きく上回り、同僚からの信頼感が役に立つ感に与える影響が大きいことを示唆するといえる。同様に、同僚に信頼できる人が1人以上いると思う者は1.62倍（モデルⅠは1.57倍）、家族からの信頼感を感じる者は1.46倍（モデルⅠは1.47倍）となった。

これらを踏まえると、「役立つ感」を感じるかどうかは、同僚から信頼されている、同僚に信頼できる人が1人以上いること、家族から信頼されていること、地域の人から信頼されていることと関係しており、これらの中では、特に同僚からの信頼感が、役立つ感に対してより大きな影響を持つことが示唆される。

仕事（職種）別にみると、公務員である場合は、会社員・事務職に比べ、3.3倍（モデルⅢ）、「役に立つ感」を感じる確率が高い。会社員・管理職は、会社員・事務職に比べ「役に立つ感」が高い傾向は観察されなかった。

図表4. 「役に立つ感」と周囲との信頼感の関係

～同僚からの信頼感を感じる者は、役に立つ感を感じる確率が2倍高い～



(注) 参考図表2のモデルⅢで推計したオッズ比。

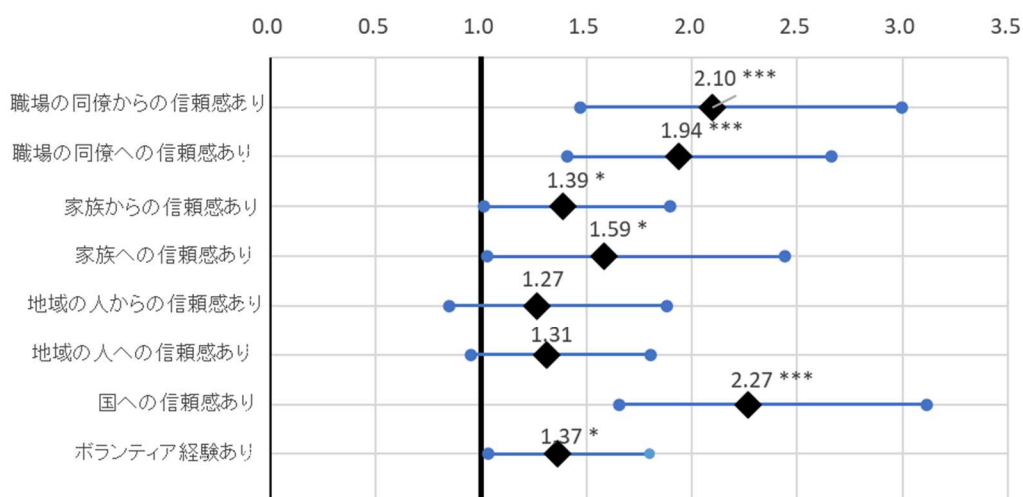
説明変数にはこのほかに、基礎的屬性(性別、家族、年齢、居住地域)と最終学歴、仕事(職種)、年収を用いて、ロジスティック回帰分析を行った。

\* p<0.05, \*\* p<0.01, \*\*\*p<0.001

< 「仕事への喜び・楽しみ」に影響する要素 >

次に、「仕事への喜び感」を被説明変数として、同様にモデルⅠ、Ⅱ、Ⅲと説明変数を増加させながら、周囲との信頼感の変数がどう変化するかを分析した（図表5）。「役に立つ感」と同様に、同僚から信頼されている、同僚に信頼できる人が1人以上いる者は、信頼されていない、あるいは信頼できる人がいない者と比べて、約2倍高い確率で「仕事への喜び・楽しみ」を感じる結果となった。また、最終学歴が高い場合に「喜び感」を感じる確率が高くなる傾向が顕著に確認された。職種別では、公務員は会社員・事務職に比べて「喜び感」を感じる確率が高く、また、自営業についても同様の傾向が示された（末尾、参考図表3）。

図表5. 「仕事（家事・学業）への喜び・楽しみ」感と周囲との信頼感の関係  
～同僚からの信頼感を感じる者は、仕事への喜びを感じる確率が2倍高い～



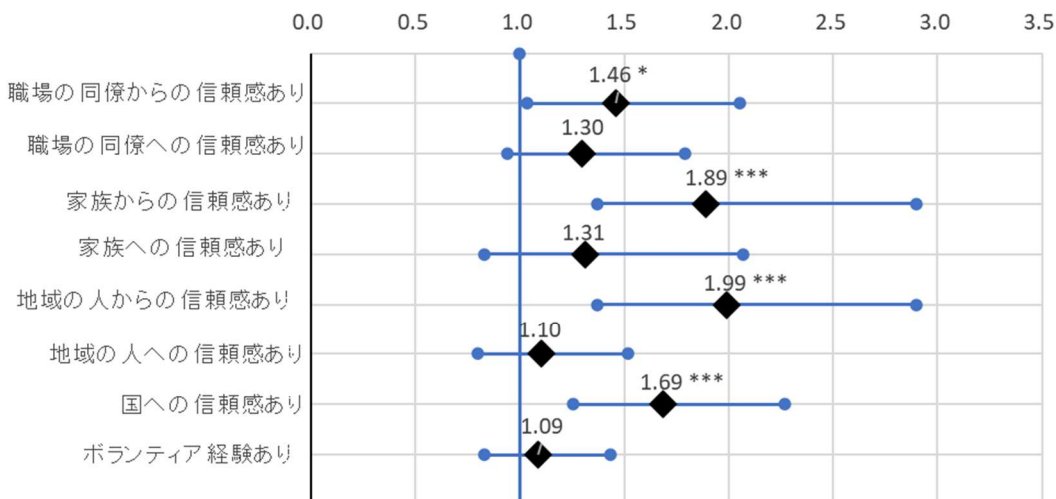
(注) 参考図表3のモデルⅢで推計したオッズ比。  
説明変数にはこのほかに、基礎的属性(性別、家族、年齢、居住地域)と最終学歴、仕事(職種)、年収を用いて、ロジスティック回帰分析を行った。  
\* p<0.05, \*\* p<0.01, \*\*\*p<0.001

## <生活満足度と周囲との信頼感>

これまでは、「生活満足度高評価」に高く相関する「役に立つ感」と「喜び・楽しみ」をそれぞれ被説明変数として、周囲との信頼感の各種変数との関係を見た。図表6は「生活満足度高評価」ダミーを直接に被説明変数とし、周囲との信頼感の各種変数との関係を見たものである。これまでに見た「役に立つ感」及び「喜び・楽しみ」の場合と比べ、家族からの信頼感がある場合、そうでない場合と比べて生活満足度が高くなる確率が1.89倍、地域についても1.99倍と高い確率となった一方、「同僚からの信頼感」についてのオッズ比は低い（図表6、参考図表4）。

以上から考えると、生活満足度については家族や地域との信頼感の影響が大きく、「役に立つ感」「仕事の喜び・楽しみ」に対しては同僚との信頼感がより大きく影響する。その「役に立つ感」「仕事の喜び・楽しみ」を経由して、同僚との信頼感も生活満足度に影響している可能性があるといえるのではないか。

図表6. 生活満足度と周囲との信頼感の関係  
～周囲との信頼感がある場合に生活満足度が高評価になる確率（オッズ比）



(注) 参考図表4のモデルⅢで推計したオッズ比。

説明変数にはこのほかに、基礎的属性(性別、家族、年齢、居住地域)と最終学歴、仕事(職種)、年収を用いて、ロジスティック回帰分析を行った。

\* p<0.05, \*\* p<0.01, \*\*\*p<0.001

むすびに

本ディスカッションペーパーでは、「仕事・家事・学業で自分が世の中に役立っている感」を主観的ウェルビーイングのユーダイモニア基準に近い変数として、生活満足度にどう影響するか、また、周囲との信頼関係がどう影響するかを分析した。

今回の分析は、一時点のインターネットのアンケート調査を基にしたものであり、サンプリング上の限界はある。また、ユーダイモニア要素を「役に立つ感」で計測できているか、あるいは多角的に計測する必要もあるだろう。

こうした留意点はあるが、改めて今回の分析を振り返ると、日本では、「役に立つ感」を感じる者において生活満足度が高くなる可能性が示唆された。ただし、「役に立つ」感を感じる者の割合は、日本は米国・ドイツと比べ、著しく低い。

その「役に立つ感」に対しては、周囲からの信頼感、とりわけ、職場での信頼感が影響することが示唆された。この点に関しても、日本では米国・ドイツと比べて信頼感が顕著に低い。すなわち、日本では、職場（学校）で信頼されていると感じる者の割合が5割程度と、米国やドイツと比べ、著しく低かった。同様の傾向が家族、住んでいる地域でも観察される。さらに、信頼できる人が1人以上いる、と回答する割合も日本では米国・ドイツと比べ極端に低かった。

日本において、周囲との信頼感が低いのは、近年の特徴なのだろうか。あるいは、どのような場合や要素が、周囲との信頼感に対して影響するのか、あるいは、どういった環境下であれば職場での信頼関係が良好になるのだろうか。こうした重要な問いが浮かぶ。

働き方改革やエンゲージメントという言葉は、頻繁に聞かれるようになった。自分が世の中の役に立つと実感でき、ウェルビーイングにつながる働き方を実現するには、どのような制度や仕組みが有効か。家族や地域の人との信頼を構築することは、個人だけの問題なのだろうか。政府や自治体は、どのような環境整備をすべきだろうか。これらはいずれも重要な研究課題であり、政策課題だと考える。

参考図表 1. 相関係数表

日本	生活満足度 高評価ダミー	仕事等で世の中 に役立つ感あり	仕事等に喜び・ 楽しみあり
生活満足度 高評価ダミー	1.000		
仕事等で世の中 に役立つ感あり	0.358	1.000	
仕事等に喜び・楽 しみあり	0.429	0.655	1.000

米国	生活満足度 高評価ダミー	仕事等で世の中 に役立つ感あり	仕事等に喜び・ 楽しみあり
生活満足度 高評価ダミー	1.000		
仕事等で世の中 に役立つ感あり	0.291	1.000	
仕事等に喜び・楽 しみあり	0.348	0.448	1.000

ドイツ	生活満足度 高評価ダミー	仕事等で世の中 に役立つ感あり	仕事等に喜び・ 楽しみあり
生活満足度 高評価ダミー	1.000		
仕事等で世の中 に役立つ感あり	0.255	1.000	
仕事等に喜び・楽 しみあり	0.307	0.470	1.000

参考図表 2. 「役に立つ感」に対する周囲の信頼感の影響

日本

被説明変数:「仕事(家事・学業を含む)で世に役立っている感」ダミー

	モデル I		モデル II		モデル III	
	信頼感、性別、家族、年齢、居住地域 オッズ比	95%信頼区間	モデル I + 学歴、仕事 オッズ比		モデル II + 年収 オッズ比	
同僚からの信頼感ダミー	2.142***	[1.527,3.004]	2.097***	[1.488,2.956]	1.989***	[1.388,2.849]
同僚への信頼感ダミー	1.571**	[1.184,2.084]	1.602**	[1.198,2.142]	1.617**	[1.179,2.217]
家族からの信頼感ダミー	1.470**	[1.111,1.946]	1.397*	[1.051,1.858]	1.456*	[1.069,1.982]
家族への信頼感ダミー	1.558*	[1.072,2.263]	1.558*	[1.066,2.276]	1.408	[0.928,2.134]
地域からの信頼感ダミー	1.588*	[1.085,2.323]	1.588*	[1.082,2.331]	1.672*	[1.114,2.510]
地域への信頼感ダミー	1.222	[0.917,1.628]	1.224	[0.914,1.639]	1.328	[0.966,1.824]
政府への信頼感ダミー	1.986***	[1.463,2.695]	1.982***	[1.455,2.699]	1.912***	[1.382,2.645]
ボランティア・寄附活動ダミー	1.729***	[1.337,2.237]	1.748***	[1.346,2.269]	1.765***	[1.332,2.339]
性別(女性ダミー)	0.96	[0.755,1.220]	1.141	[0.878,1.482]	1.291	[0.957,1.742]
単身世帯ダミー	1.214	[0.897,1.642]	1.163	[0.855,1.582]	1.241	[0.891,1.727]
<年齢>						
20歳代	(ベースライン)		(ベースライン)		(ベースライン)	
30歳代	0.879	[0.610,1.267]	0.824	[0.549,1.236]	0.856	[0.551,1.331]
40歳代	1.32	[0.943,1.849]	1.243	[0.848,1.821]	1.155	[0.758,1.761]
50歳代	1.102	[0.773,1.572]	1.013	[0.675,1.518]	0.882	[0.564,1.379]
60歳代	2.081***	[1.367,3.168]	1.853**	[1.163,2.954]	1.656*	[1.006,2.728]
<居住地域>						
都市部	(ベースライン)		(ベースライン)		(ベースライン)	
中核都市	1.052	[0.819,1.352]	1.079	[0.837,1.393]	1.084	[0.824,1.428]
町	1.07	[0.696,1.646]	1.120	[0.723,1.737]	1.126	[0.702,1.806]
村	1.241	[0.555,2.774]	1.301	[0.575,2.942]	1.799	[0.726,4.459]
<最終学歴>						
中卒・高卒・専門学校・短大卒	(ベースライン)		(ベースライン)		(ベースライン)	
大学卒			1.274	[0.985,1.648]	1.102	[0.832,1.461]
大学院卒			2.179**	[1.274,3.728]	1.652	[0.930,2.933]
<仕事>						
会社員・事務職	(ベースライン)		(ベースライン)		(ベースライン)	
会社員・技術職			0.840	[0.568,1.244]	0.696	[0.456,1.062]
会社員・管理職			1.036	[0.620,1.730]	0.702	[0.393,1.255]
自営業			1.271	[0.787,2.053]	1.037	[0.606,1.775]
公務員			2.775*	[1.127,6.836]	3.256*	[1.117,9.492]
パート			0.708	[0.461,1.085]	0.738	[0.437,1.245]
学生			0.783	[0.429,1.429]	0.839	[0.383,1.838]
農林漁業			0.951	[0.268,3.369]	0.844	[0.221,3.225]
<個人年収>						
100万円未満	(ベースライン)		(ベースライン)		(ベースライン)	
100~200万円未満					1.173	[0.717,1.919]
200~400万円未満					1.173	[0.695,1.979]
400~600万円未満					1.208	[0.676,2.160]
600~800万円未満					1.438	[0.738,2.804]
800~1000万円未満					1.997	[0.928,4.296]
1000万円以上					4.441**	[1.555,12.682]
N		1,500		1,500		1,316
疑似決定係数		0.182		0.196		0.203
カイ2乗		376.5		405.3		367.3

\* p<0.05, \*\* p<0.01, \*\*\*p<0.001

参考図表 3. 「仕事の喜び・楽しみ感」に対する周囲の信頼感の影響

被説明変数:「仕事(家事・学業を含む)の喜び感」ダミー

	モデル I 信頼感、性別、家族、年齢、居住地域		モデル II モデル I + 学歴、仕事		モデル III モデル II + 年収	
	オッズ比	95%信頼区間	オッズ比		オッズ比	
同僚からの信頼感ダミー	2.232***	[1.601,3.111]	2.206***	[1.570,3.101]	2.099***	[1.471,2.995]
同僚への信頼感ダミー	1.687***	[1.275,2.233]	1.855***	[1.385,2.485]	1.938***	[1.411,2.661]
家族からの信頼感ダミー	1.345*	[1.014,1.783]	1.303	[0.974,1.742]	1.387*	[1.014,1.898]
家族への信頼感ダミー	1.747**	[1.190,2.565]	1.732**	[1.168,2.570]	1.587*	[1.031,2.444]
地域からの信頼感ダミー	1.176	[0.814,1.701]	1.151	[0.790,1.676]	1.267	[0.852,1.883]
地域への信頼感ダミー	1.344*	[1.010,1.789]	1.340	[0.999,1.798]	1.313	[0.954,1.808]
政府への信頼感ダミー	2.258***	[1.678,3.039]	2.309***	[1.704,3.130]	2.270***	[1.654,3.116]
ボランティア・寄附活動ダミー	1.515**	[1.176,1.953]	1.491**	[1.150,1.935]	1.366*	[1.033,1.805]
性別(女性ダミー)	1.229	[0.968,1.561]	1.371*	[1.053,1.786]	1.334	[0.988,1.802]
単身世帯ダミー	1.189	[0.878,1.609]	1.138	[0.833,1.554]	1.241	[0.888,1.733]
<年齢>						
20歳代 (ベースライン)			(ベースライン)		(ベースライン)	
30歳代	0.569**	[0.393,0.824]	0.594*	[0.393,0.897]	0.670	[0.429,1.045]
40歳代	1.023	[0.732,1.429]	1.076	[0.733,1.578]	1.088	[0.714,1.658]
50歳代	0.909	[0.638,1.295]	0.966	[0.643,1.451]	0.905	[0.579,1.415]
60歳代	1.273	[0.848,1.911]	1.191	[0.753,1.882]	1.181	[0.725,1.923]
<居住地域>						
都市部 (ベースライン)			(ベースライン)		(ベースライン)	
中核都市	1.18	[0.919,1.514]	1.192	[0.922,1.540]	1.212	[0.920,1.596]
町	0.896	[0.582,1.380]	0.915	[0.588,1.423]	1.000	[0.622,1.606]
村	1.098	[0.492,2.448]	1.114	[0.491,2.530]	1.485	[0.610,3.615]
<最終学歴>						
中卒・高卒・専門学校・短大卒 (ベースライン)			(ベースライン)		(ベースライン)	
大学卒			1.441**	[1.111,1.870]	1.384*	[1.043,1.838]
大学院卒			2.717***	[1.589,4.648]	2.395**	[1.346,4.260]
<仕事>						
会社員・事務職 (ベースライン)			(ベースライン)		(ベースライン)	
会社員・技術職			1.209	[0.806,1.814]	1.105	[0.716,1.705]
会社員・管理職			1.217	[0.730,2.027]	0.849	[0.476,1.515]
自営業			2.924***	[1.784,4.791]	2.350**	[1.359,4.064]
公務員			3.646**	[1.549,8.578]	3.426**	[1.356,8.655]
パート			1.210	[0.778,1.880]	1.118	[0.655,1.907]
学生			1.858*	[1.005,3.432]	1.802	[0.812,3.998]
農林漁業			3.162	[0.896,11.167]	2.884	[0.778,10.684]
<個人年収>						
100万円未満 (ベースライン)					(ベースライン)	
100~200万円未満					1.017	[0.621,1.665]
200~400万円未満					0.910	[0.539,1.537]
400~600万円未満					0.666	[0.371,1.195]
600~800万円未満					0.947	[0.488,1.841]
800~1000万円未満					1.395	[0.652,2.982]
1000万円以上					2.852*	[1.081,7.527]
N	1,500		1,500		1,316	
疑似決定係数	0.178		0.205		0.208	
カイ2乗	369.2		425.8		378.7	

\* p<0.05, \*\* p<0.01, \*\*\*p<0.001

参考図表 4. 「生活満足度」(高評価) に対する周囲の信頼感の影響

日本	被説明変数:「生活満足度高評価」ダミー			
	モデル I 信頼感、性別、家族、年齢、居住地域 オッズ比	95%信頼区間	モデル II モデル I + 学歴、仕事 オッズ比	モデル III モデル II + 年収 オッズ比
同僚からの信頼感ダミー	1.539**	[1.117,2.121]	1.471* [1.061,2.040]	1.458* [1.034,2.055]
同僚への信頼感ダミー	1.356*	[1.014,1.814]	1.329 [0.985,1.793]	1.299 [0.942,1.791]
家族からの信頼感ダミー	2.184***	[1.631,2.925]	2.112*** [1.570,2.842]	1.893*** [1.376,2.604]
家族への信頼感ダミー	1.455	[0.960,2.205]	1.439 [0.941,2.199]	1.311 [0.829,2.071]
地域からの信頼感ダミー	1.764**	[1.247,2.495]	1.796** [1.262,2.556]	1.992*** [1.370,2.896]
地域への信頼感ダミー	1.01	[0.754,1.354]	1.054 [0.782,1.420]	1.102 [0.800,1.518]
政府への信頼感ダミー	1.818***	[1.377,2.402]	1.804*** [1.360,2.394]	1.688*** [1.256,2.270]
ボランティア・寄附活動ダミー	1.192	[0.927,1.533]	1.191 [0.922,1.539]	1.090 [0.829,1.433]
性別(女性ダミー)	1.380**	[1.087,1.751]	1.716*** [1.318,2.236]	1.883*** [1.392,2.548]
単身世帯ダミー	0.842	[0.620,1.145]	0.789 [0.576,1.080]	0.725 [0.519,1.013]
<年齢>				
20歳代	(ベースライン)		(ベースライン)	(ベースライン)
30歳代	0.877	[0.606,1.269]	0.942 [0.623,1.423]	1.010 [0.648,1.575]
40歳代	0.964	[0.689,1.349]	1.050 [0.713,1.546]	1.053 [0.691,1.604]
50歳代	0.776	[0.541,1.114]	0.813 [0.537,1.230]	0.729 [0.465,1.144]
60歳代	1.072	[0.724,1.588]	1.143 [0.732,1.784]	1.078 [0.670,1.733]
<居住地域>				
都市部	(ベースライン)		(ベースライン)	(ベースライン)
中核都市	0.972	[0.758,1.248]	0.997 [0.773,1.286]	1.055 [0.805,1.384]
町	0.814	[0.524,1.264]	0.879 [0.560,1.378]	1.030 [0.639,1.662]
村	1.178	[0.517,2.680]	1.431 [0.620,3.299]	1.884 [0.764,4.647]
<最終学歴>				
中卒・高卒・専門学校・短大卒			(ベースライン)	(ベースライン)
大学卒			1.164 [0.897,1.510]	1.170 [0.882,1.550]
大学院卒			2.091** [1.259,3.474]	1.977* [1.154,3.386]
<仕事>				
会社員・事務職			(ベースライン)	(ベースライン)
会社員・技術職			1.064 [0.707,1.602]	0.950 [0.619,1.460]
会社員・管理職			1.142 [0.687,1.896]	0.864 [0.492,1.517]
自営業			1.145 [0.700,1.875]	1.195 [0.696,2.055]
公務員			2.806* [1.275,6.175]	2.438* [1.053,5.643]
パート			0.640 [0.408,1.006]	0.800 [0.465,1.377]
学生			1.240 [0.678,2.268]	1.969 [0.904,4.290]
農林漁業			0.283 [0.055,1.464]	0.257 [0.048,1.386]
<個人年収>				
100万円未満				(ベースライン)
100~200万円未満				0.870 [0.521,1.453]
200~400万円未満				1.612 [0.945,2.749]
400~600万円未満				1.358 [0.751,2.454]
600~800万円未満				1.742 [0.895,3.390]
800~1000万円未満				2.855** [1.346,6.055]
1000万円以上				2.548* [1.057,6.144]
N	1,500		1,500	1,316
疑似決定係数	0.152		0.17	0.172
カイ2乗	304.2		341.4	306.5

\* p<0.05, \*\* p<0.01, \*\*\*p<0.001



## 参考文献

小塩隆士 (2014) 『『幸せ』の決まり方 主観的厚生 of 経済学』、日本経済出版社

(一社) 経済社会システム総合研究所「KAITEKI 研究会」(2022) 『社会課題に関する3か国(日本・米国・ドイツ)意識調査 —生活者、働き手、消費者、投資家、有権者としての意識—』、2022年10月、

松下美帆(2023)「ウェルビーイング指標の政策活用: 海外事例と日本への示唆」  
一橋大学経済研究所世代間問題研究機構ディスカッションペーパー第699号

Department of Finance, Canada. (2021), “Measuring What Matters: Toward a Quality of Life Strategy for Canada”

John F. Helliwell, Haifang Huang, Max Norton, Leonard Goff, Shun Wang., (2023). “World Happiness, Trust and Social Connections in Times of Crisis” , World Happiness Report 2023 Chapter2

Oshio T. and Urakawa K. (2013). The association between perceived income inequality and subjective well-being: Evidence from a social survey in Japan. *Social Indicators Research*